

「医療機関向けサポートブック」作成の手引き



このサポートブックは
医療機関にお世話になるときに活用していただくためのものです。
一般的なサポートブックは、医療機関では必要のない情報も含まれています。
看護者が迅速に必要な情報が読み取れるものを用意しておくで安心です。
適切な医療を受けるため、ご本人、ご家族、そして医療従事者の方々のため、
ぜひ準備していただきたく思います。

読みやすさを重視して、簡潔にまとめる必要がありますので、支援者（療育
の先生、担任の先生、相談支援専門員など）にもチェックしてもらうことをお
勧めします。

書き方のポイント



 ポイントを絞って記入し、A4 2枚（裏表1枚でもよい）で収めてくださ
い。看護者にとって重要な情報から順に読み進められるよう構成されています。

 **1枚目**・・・当事者と接する際に必ず必要となってくるもつとも重要な
情報を簡潔にまとめてください。主にパニックを回避・パニック時の対応に
ついての情報と言ってもよいです。

**障がい特性などについて特別な知識がない方が対応することも想定してく
ださい。**

 **2枚目**・・・入院中などに必要となる緊急性は低い情報になります。

 1枚目2枚目で記入しきれなかった内容があれば、添付資料として準備
するのもお勧めです。

以下、項目ごとの記入時のポイントと記入例、Q&Aを参考にしてください。

【名前・呼び名】

カルテに記載されている氏名、いつも使っている呼び名。

【診断名】

医療機関での診断名

【アレルギー】

原因となる薬や食品などと、摂取したときの症状、通常への対応方法。

【服薬状況】

いつも使用している薬について。お薬手帳のコピーを貼ってもよい。
てんかん発作やアレルギー反応などがあつたときの対処法。

【障がい特性（トラブル回避ポイントなど）】

パニックやトラブルを回避するために看護者に最も伝えておきたい内容。

・ 通常の医療機関での対応

普段の医療機関での様子、医療行為における得意不得意など。苦手な医療行為に対する解決法などもあればいいが、なければありのままの状況を記入。

・ こだわりに関すること

対応する看護者が知っておいたほうがよいこだわりと対処法。

・ 感覚異常に伴うこと

痛みの感じ方・表現、体温調節、力の強さ、聴覚過敏、視覚的感覚の特性などから来る対応のコツ。

・ 生活リズムに関すること

情緒の安定を保つために守っておいたほうがよい生活リズムについて。
(普段の生活リズムについての詳細は2枚目に記載するので、ここでは重要事項のみ)

・ その他

上記以外のパニックを回避するために必要な情報。

【コミュニケーション】

コミュニケーション方法について、
「理解」（本人の理解の仕方・理解力について）

「表出」(本人の意思を他者にどう伝えられるか)
「サポート方法」(対応の仕方・コツなど)
にポイントを置いて記入。

【食事】

普段の食事のとり方。

※ 食物アレルギーについては重要事項なので重複して記載するのもお勧めです。

【トイレ・着替え】

普段の方法と注意点。

【余暇の過ごし方・好きなこと】

長期間同じ場所で落ち着いて過ごす場合に役立つ情報。

【連絡先】

最もご本人を把握している方の連絡先を上から順に。

【備考欄】

普段の様子、ケジュールや、その他必要に応じて。

よくある質問 Q & A



Q1、どのような状況でこのサポートブックが役に立ちますか？

→→本人陽性、家族陰性の場合；本人のみ入院となった場合はもちろんですが、保護者付き添いでの入院となった場合も整理された書面での情報を共有できることはスムーズな入院生活を送るのに役立つと思われます。

→→本人陰性、家族陽性の場合；自宅隔離の場合は必要ありません。ご家族が入院となった場合の預け先については未定ですが、濃厚接触者となり医療機関での預かりとなる可能性もゼロではありません。

Q1、字が小さすぎたら読みにくくないですか？

→→情報の全体像が一目でわかり、必要な情報にすばやくたどり着く必要があります。A4 2枚の構成としています。小さな字でも重要な情報は各項目ごとに書き込み、書ききれない詳細な情報は備考欄に付け加えるなど各自で工夫して下さい。医療関係者の方は必要な情報であれば、頑張って読んでくれますよ。

Q2、手書きでもいいですか？

→→手書きでも大丈夫です。支援者にパソコン入力できる方がいれば頼んでみるのもいいと思います。これをきっかけにお子さんの理解が深まるかもしれません。

Q3、アレルギーの情報をアレルギーの欄に書ききれません

→→書ききれない内容は備考欄に追加記入して下さい。またその旨を、アレルギー欄に記して下さい。（記入例を参照）

他の項目でも、スペースが足りないなどあれば同様にして下さい。各自で工夫していただけたらと思います。

Q4、さまざまな特性、こだわりがありますが何をどこに書いたらいいか迷います。

→→例)を参考にして下さい。正解不正解はありません。重要な内容ほど前半に来るように配置すると伝わりやすいと思います。

Q5、点滴は抜いてしまうので最後まで治療を受けられたことがありません。よい改善策がないのですがどうしたらいいのでしょうか？

→→ありのままを記入して下さい。前もってそういった情報があると医療者も心構えをすることが出来ます。

Q5、自由記述なので一から書き込むのは大変すぎます。

→→まずは一つの項目だけでも記入してみましよう。

実際に感染症等で入院となった場合は、情報を整理して他所に伝えるのとても大変です。平時に誰かと相談しながら作成されることをお勧めします。

Q6、医ケア見です。何をどこまで書いたらいいかわかりません。

→→医療面での情報は訪問看護の担当者さんや、主治医のほうで情報が管理されていると思います。どこまで把握していただいているか確認し、親として足りない情報を書いておくとよいでしょう。

Q7、療育手帳、障害者手帳の情報や、IQ (DQ) などの情報は必要ないですか？

→→このサポートブックは治療に直接必要な情報をわかりやすく伝えるのが目的です。通常の医療機関のカルテに乗っている情報（血液型や性別など）はあえて、項目として入れていません。